

# 動く、強盛大国、構える、超大国

李鍾元さん (立教大教授・法学部長) の問題提起

北朝鮮「対話攻勢」／オバマ政権 非核化どう進める



李鍾元さん (立教大教授・法学部長) の問題提起

ミサイル発射から核実験の強行へと突き進んだ北朝鮮の瀬戸際戦略で、「チキンレース」の衝突さえ危惧された朝鮮半島情勢だが、「こゝへきて「対話と交渉」への局面転換の模索が浮上しはじめた。中国が調停に熱を入れ、米国の2国間協議をめぐる折衝が正念場を迎える一方、南北首脳会談を視野にいたれた韓国と北朝鮮の「秘密接触」が報じられた。

注目されるのは、北朝鮮自身が「全方位対話攻勢」とでも言うべき積極姿勢を取っている点だ。8月、金正日総書記自らクリントン米元大統領と韓国・現代グループの玄貞恩会長と会談に臨み、「非核化」と関係改善の意思を強調した。9月に中国の戴秉常副外相と会談し、10月には温家宝首相とも会談し、「米朝交渉の結果次第」という条件付きながら、6者協議(①)への復帰も触れた。

問題は、こうした異例ともいえる積極姿勢に表れた北朝鮮の状況と真意をどうとらえ、対応するかである。それは、制裁を回避し、経済支援を取り付けるための一時的な戦術的行動なのか。それとも、体制の引き締めで安定を取り戻した金正日総書記自らの主導による対外関係改善への戦略的な決断につながるものなのか。

対話外交を掲げるオバマ政権だが、米朝直接協議で「非核化」と6者協議再開への実質的な進展が得られるか、慎重に見極めつつ、接触を始めようとしている。北朝鮮の核能力がまだ不完全であるという判断に加え、交渉の長期化と断片化を繰り返した過去のパートナーへの批判が背景にある。

しかし、米朝交渉の本格的な再開を急ぐ北朝鮮の核問題での進展を急がなければならない。再び北朝鮮の瀬戸際の挑発行動が噴出する可能性も否定できない中で、「非核化」という目標の包括性を確保しつつ、それに至る現実的なプロセスをいかに早期化するかの。理想主義と現実主義の結合を特徴とするオバマ外交のビジョンと手腕が問われる。

久保 文明さん

東大法学部教授



久保 文明さん 東大法学部教授

小菅 金正日総書記の健康問題(②)で、後継体制も取りざたされた北朝鮮の現状をどう見るか。李 総書記の健康問題は、北朝鮮の体制に動揺をもたらした。一時の強硬姿勢の背景には内部の不安があり、体制引き締めを図る必要があったのではないか。だが、総書記の健康が回復を遂げ、夏ごろから総書記自身が前面に出てきた。クリントン米大統領とは3時間、韓国の現代グループ会長とは4時間、中国の温家宝首相とは10時間及び会談を行った。自ら政権を掌握し、決定を行う能力と意思を内外に誇示する行動だ。局面打開、転換を図ってきた。

平岩 総書記の健康問題を否定するつもりはないが、ミサイル発射実験と核実験はワンセットで、最初からあるつもりだったのだ。オバマ政権との交渉が本格化する前に、自らの核能力を高めた上で、二国間交渉に臨む既定路線だったと、私は考える。

北朝鮮にとって最重要課題は米朝との関係だ。例えば、核兵器を放棄する場合は、米朝の北朝鮮に対する敵視政策が解除されなければならない。北朝鮮は、将来的な生存空間を確保するためには、米朝の脅威の除去が最優先と考えている。

小菅 北朝鮮は2012年に建国の父・金日成の生誕100年という大きな節目を迎える。この年に「強盛大国的大门を開く」と宣言し、体制の生き残りを図っている。これから北朝鮮はどう出てくるのだろうか。

李 「強盛大国」は国内経済の総動員態勢の「スローガン」として使われている。政治大国、核兵器を持つ軍事大国、そして残っている課題が経済大国という認識だ。だが北朝鮮が自力で、経済の立て直しを成し遂げるのは、非常に難しい。米朝、日本との国交正常化を含めた目標を描いているはずだ。

平岩 俊司さん

静岡県立大大学院教授



平岩 俊司さん 静岡県立大大学院教授

従来、北朝鮮は期限を考慮せずに戦術的に動いてきたが、約2年前から、12年の「強盛大国」実現を目標に掲げ、自ら期限を設定して「核の放棄」をカードに、米朝との関係改善を急ぎ、次に日本との関係改善を図る。そこには金正日自身の健康問題や年齢も影響している。一連の直接会談には、戦略的な決断であることを示そうとする意図も浮かぶ。

平岩 私は北朝鮮が核兵器に踏み切るのはかなり難しいと思う。少なくとも今年1月以降、北朝鮮が発したメッセージを眺むと、例えば米朝に対し韓国への「核の傘」の提供を求めようとする。6者協議は永遠に開かれない」といった表現をしたりしている。中国に、多国籍協議に復帰すると言った。6者協議に戻るなら、すべての核兵器と核計画の放棄などを包括的に盛り込んだ05年9月の共同声明(③)が前提になる。北朝鮮がその合意で戻るかどうかわからない。仮に6者協議に戻るにしても、やはりそこを「ごまかし」ながら、戦術的に米朝との関係を構築しようとしているのではないか。

小菅 米朝の対話は、クリントン、ブッシュ両政権の対北朝鮮交渉から教訓を得ている。政権末期に急いで交渉しても譲歩は迫られる。ただ、まだ今の段階では時間的な余裕がある。焦る必要はないと考えている。「完全に検証可能かつ後戻りできない核の放棄(CVID)に向け、北朝鮮の行動を見極めようとしている。米民主党政が、大統領選前の主張を変えたことにも注目すべきだ。以前は、ブッシュ政権への批判として、米朝の直接交渉を要求していたが、政権獲得後は6者協議の枠組みを残そうとしている。日本に

小菅 幸一

本紙論説委員



小菅 幸一 本紙論説委員

北朝鮮の核開発問題は、核拡散という世界規模の課題を突きつける。韓国、日本という同盟国に対する脅威でもある。だが米朝は、核大国・ロシアとの軍縮交渉、イラン問題、テロ集団への拡散防止も抱えている。地域的な重要性、国際的に波及する危険性からも、かなり孤立した北朝鮮の重要度は、イランより低い。

李 従来、米朝にとって、運搬手段などが未だ完成である北朝鮮の核は、政治的な脅威であっても緊急に対応すべき軍事的な脅威ではないという認識があった。4月の北朝鮮のミサイル実験の際、クリントン副大統領、ジョンス大統領補佐官(国家安全保障担当)が相次いで、「北朝鮮の核とミサイルは、差し迫った軍事的脅威ではない」と表明した。

北朝鮮への制裁を見ても、米朝の主眼は技術的移転防止にある。しかも、朝鮮半島は戦場が局地化できない。93年から94年の核危機の際に軍事オプションを真剣に検討したが、戦争という選択は躊躇された。米朝は最終的には対話があまいになり、そこを北朝鮮が突かれ、足元を見透かされてきた。オバマ大統領もこの構造から自由ではない。

小菅 米朝の戦略対話は、経済から、安全保障まで深まってきている。北朝鮮問題への対応でも、中国の存在感は大きい。

平岩 中国にとって北朝鮮は二つの側面が微妙にからんでいる。朝鮮戦争の盟友という伝統的な同盟関係と、朝鮮半島問題をめぐる多国籍関係だ。中国の改革開放で国際社会との関係、特に米朝との関係が重要になってきた。だが、CVIDを求めた日本と中国にはズレがある。日本は、核不拡散条約(NPT)体制(④)

## 金総書記 陣頭に立ち戦略転換か 強硬策は既定路線 核放棄困難か

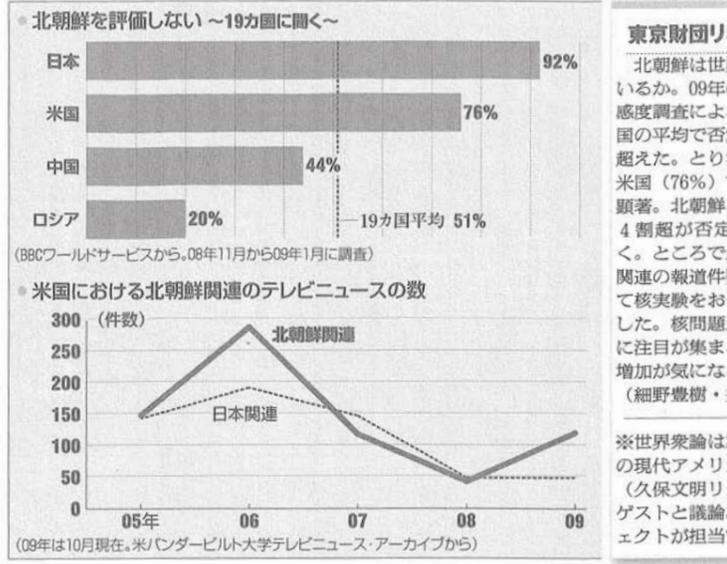
北朝鮮の核開発問題は、核拡散という世界規模の課題を突きつける。韓国、日本という同盟国に対する脅威でもある。だが米朝は、核大国・ロシアとの軍縮交渉、イラン問題、テロ集団への拡散防止も抱えている。地域的な重要性、国際的に波及する危険性からも、かなり孤立した北朝鮮の重要度は、イランより低い。

李 従来、米朝にとって、運搬手段などが未だ完成である北朝鮮の核は、政治的な脅威であっても緊急に対応すべき軍事的な脅威ではないという認識があった。4月の北朝鮮のミサイル実験の際、クリントン副大統領、ジョンス大統領補佐官(国家安全保障担当)が相次いで、「北朝鮮の核とミサイルは、差し迫った軍事的脅威ではない」と表明した。

北朝鮮への制裁を見ても、米朝の主眼は技術的移転防止にある。しかも、朝鮮半島は戦場が局地化できない。93年から94年の核危機の際に軍事オプションを真剣に検討したが、戦争という選択は躊躇された。米朝は最終的には対話があまいになり、そこを北朝鮮が突かれ、足元を見透かされてきた。オバマ大統領もこの構造から自由ではない。

小菅 米朝の戦略対話は、経済から、安全保障まで深まってきている。北朝鮮問題への対応でも、中国の存在感は大きい。

平岩 中国にとって北朝鮮は二つの側面が微妙にからんでいる。朝鮮戦争の盟友という伝統的な同盟関係と、朝鮮半島問題をめぐる多国籍関係だ。中国の改革開放で国際社会との関係、特に米朝との関係が重要になってきた。だが、CVIDを求めた日本と中国にはズレがある。日本は、核不拡散条約(NPT)体制(④)



**東京財団レポート**

北朝鮮は世界からどう見られているか。09年の英BBCの国際好感度調査によると、実施した19カ国の平均で否定的な見方が半数を超えた。とりわけ日本(92%)、米国(76%)でイメージの悪さが顕著。北朝鮮と関係が深い中国で4割超が否定的なものも興味をひく。ところで米国における北朝鮮関連の報道件数は、北朝鮮が初めて核実験をおこなった06年に急増した。核問題が緊迫すると北朝鮮に注目が集まるのか。今年の件数増加が気になるところだ。(細野豊樹・共立女子大准教授)

※世界衆論は本紙記者と東京財団の現代アメリカ研究プロジェクト(久保文明リーダー)の担当者がゲストと議論。レポートもプロジェクトが担当する。

## ウラン濃縮認めたら北朝鮮の真意は 拉致問題進展は日米の信頼が基礎

もめたウラン濃縮について、北朝鮮が認めたことは大きい。6者協議に戻ってからは、ウラン濃縮も含めた議論の対象となる。ただ、そこまでの変化がどうなるか。

李 昨年までの6者協議の後半のプロセスでもそうだが、北朝鮮は一定程度に関係改善と経済支援が得られるなら、核の放棄の部分を放棄することは同意する姿勢を見せた。まずは、そういう部分を組み込み、最終的な核の放棄への道筋を明確なタイムスケジュールとともに規定するロードマップ(工程表)づくりは北朝鮮を引き込む方法を模索すべきだ。

小菅 李さんのいう北朝鮮の「全方位対話攻勢」は米朝中韓に向かっているが、日本に対してはあまり見えていない。鳩山政権の真体が見えない。核の脅威、さらには拉致問題を抱える日本の対応はどうしていくべきかと考えるか。

久保 日本が気をつけなければならないのは、カギを握るのは北朝鮮側であり、日本と米朝との関係が、拉致問題を含めて日本の北朝鮮問題を大きく左右することだ。米朝に最大の対日配慮を期待するのなら、米軍基地問題やアフガニスタン問題を含めて、日米関係に信頼を構築する必要がある。

平岩 今回の北朝鮮の対話攻勢は、クリントン米大統領の訪朝以降、どこで何が話し合われたか。二つのことが明示されている。南北関係の修復と、拉致問題の再調査委員会の立ち上げ。北朝鮮は、南北の修復に動いた。それが、拉致問題の動きかけがその手を出している。

李 北朝鮮は、ウラン濃縮の問題を意図的に出したのではない。米朝、多国籍協議での交渉カードを増やそうとしている印象がある。

小菅 結局、行き着くところは、北朝鮮が本心に核を捨てる意思があるのか、という問題だ。6者協議が止まらず1年以上になるが、協議は進み、ウラン濃縮まで手を出している。

平岩 ブッシュ政権時代、米朝で「やむを得ない」で「やむを得ない」で

もめたウラン濃縮について、北朝鮮が認めたことは大きい。6者協議に戻ってからは、ウラン濃縮も含めた議論の対象となる。ただ、そこまでの変化がどうなるか。

李 昨年までの6者協議の後半のプロセスでもそうだが、北朝鮮は一定程度に関係改善と経済支援が得られるなら、核の放棄の部分を放棄することは同意する姿勢を見せた。まずは、そういう部分を組み込み、最終的な核の放棄への道筋を明確なタイムスケジュールとともに規定するロードマップ(工程表)づくりは北朝鮮を引き込む方法を模索すべきだ。

小菅 李さんのいう北朝鮮の「全方位対話攻勢」は米朝中韓に向かっているが、日本に対してはあまり見えていない。鳩山政権の真体が見えない。核の脅威、さらには拉致問題を抱える日本の対応はどうしていくべきかと考えるか。

久保 日本が気をつけなければならないのは、カギを握るのは北朝鮮側であり、日本と米朝との関係が、拉致問題を含めて日本の北朝鮮問題を大きく左右することだ。米朝に最大の対日配慮を期待するのなら、米軍基地問題やアフガニスタン問題を含めて、日米関係に信頼を構築する必要がある。

平岩 今回の北朝鮮の対話攻勢は、クリントン米大統領の訪朝以降、どこで何が話し合われたか。二つのことが明示されている。南北関係の修復と、拉致問題の再調査委員会の立ち上げ。北朝鮮は、南北の修復に動いた。それが、拉致問題の動きかけがその手を出している。

李 北朝鮮は、ウラン濃縮の問題を意図的に出したのではない。米朝、多国籍協議での交渉カードを増やそうとしている印象がある。

小菅 結局、行き着くところは、北朝鮮が本心に核を捨てる意思があるのか、という問題だ。6者協議が止まらず1年以上になるが、協議は進み、ウラン濃縮まで手を出している。

平岩 ブッシュ政権時代、米朝で「やむを得ない」で「やむを得ない」で

## 米朝で突破口探り、6者につなぐ

北朝鮮が外から信じられないのと同じく、あるいはそれ以上に、北朝鮮は対外不信の塊と云っていい。だから軍縮交渉を進めるのであり、体制維持のための「守りの核」なのだ。ということは、信頼に足らない北朝鮮が思えるほどの安全の保証がない限り、核放棄はないことになる。そこに北朝鮮問題の難しさがある。

ウラン濃縮の登場で核放棄へのハードルがさらに高まった。核問題だけ、また拉致問題だけ、単独で解決できるものではない。6者協議共同声明が描く包括的な解決へ交渉を重ね、信頼を少しずつ醸成していくしかある。核問題の進展は日本の利益だ。もし「核」が動き出したら、連動して「拉致」でも北朝鮮が動く仕組みを日本は考えねばならない。その際、米国はもろろ韓国、中国との連携が大事だ。

わわけではない。本質は米朝関係が握られているから。オバマ政権で初めて米政府代表が年内にも訪朝する。米朝で突破口を探る6者につなぐ。

核問題の進展は日本の利益だ。もし「核」が動き出したら、連動して「拉致」でも北朝鮮が動く仕組みを日本は考えねばならない。その際、米国はもろろ韓国、中国との連携が大事だ。

わわけではない。本質は米朝関係が握られているから。オバマ政権で初めて米政府代表が年内にも訪朝する。米朝で突破口を探る6者につなぐ。

核問題の進展は日本の利益だ。もし「核」が動き出したら、連動して「拉致」でも北朝鮮が動く仕組みを日本は考えねばならない。その際、米国はもろろ韓国、中国との連携が大事だ。

Opinion オピニオン

世界衆論

多くの人の議論意見(広辞苑)

・全国の智力に由る議論を成し、その衆論の知する所に政府を改め、遂に封建の制度をも廃したる(『福沢諭吉』「文明論之概略」)